

資料提供	(令和元年10月18日)
担当課(室)	健康推進課
担当者	並川・花光
電話(直通)	073-441-2643



(体長4.5mm内外)

日本脳炎の予防のために蚊に注意！

和歌山県において、9月以降日本脳炎患者が県内各地で連続して3人発生しました。日本脳炎は、日本脳炎ウイルスをもった蚊によって感染する中枢神経（脳や脊髄など）の疾患です。蚊に刺されないように気をつけましょう。

○日本脳炎の発生状況

年	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
和歌山県	0	0	0	1	0	0	3
全国(和歌山県を含む)	9	2	9	11	3	0	3※

※40週（～10月13日、広島、山口、和歌山、各1人）

なお、今回の3例の患者は70歳代2名、80歳代1名

○日本脳炎とは【4類感染症】

日本脳炎ウイルスによって起こるウイルス感染症で、人がこのウイルスを持っている蚊（主にコガタアカイエカ）に刺されることにより、感染する。日本脳炎ウイルスは主に豚等の体内で増加し、その豚の血液を吸血した蚊に刺されることにより感染する。人から人への感染はない。

○臨床症状等

感染しても日本脳炎を発病するのは100～1,000人に1人程度であり、大多数は無症状に終わる。抗体価の低い幼少児と老年者が発症しやすい。1～2週間の潜伏期間を経て、高熱、頭痛、嘔吐。その後、意識障害、痙攣、麻痺などが現れる。生存者の45～70%に痙攣、麻痺、精神発達遅延、精神障害などの後遺症が残り、小児では特に重度の障害を残すことが多い。

○蚊（コガタアカイエカ）について

蚊の多くは、春から秋（3～11月）にかけて活動が活発になります。

コガタアカイエカは水田・沼地で発生し、概ね2km前後の範囲で活動するとされており、1日の内日没後に活動するといわれています。

【日本脳炎の予防対策】

- ① 肌の露出を少なくする ⇒ 帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等
- ② 長袖・長ズボン等を着用する
⇒ シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる
- ③ 適切に虫刺され防止剤を使用する
⇒ DEET等(虫よけ剤の成分)を含む虫よけスプレーも有効
- ④ 日本脳炎の予防接種で防ぐ
⇒ 定期接種（生後6か月から）、任意接種（成人の場合）